

平成25年度 魚沼市社会科部活動報告

部長 伊佐 貢一

- 1 研究主題 「思考・判断・表現」の力を高める指導と評価
～ 言語活動を取り入れた社会科学習指導のあり方～

2 研究の概要

- (1) 教育課程伝達講習と授業実践レポート発表及び協議

- ① 期日・会場 平成25年8月8日(木) 小出ボランティアセンター
- ② 内容 ○ 松永 英美子 先生(堀之内小学校)による教育課程伝達講習
「新学習指導要領の着実な実施と適切な学習評価」について
○ 全会員による授業実践レポート発表と協議

- (2) 研究授業と協議会

- ① 期日・会場 平成25年11月7日(木)・魚沼市立堀之内小学校
- ② 内容 ○ 6年生 単元名:「戦争から平和へ」
授業者:魚沼市立堀之内小学校 眞霜 達文 先生

3 研究の実際

- (1) 伝達講習の中で、研究テーマに関連する内容として、社会科において大切にしたい三つの言語活動について確認した。

- ① 調べたこと分かったことを記録すること
- ② 分かったことや考えたことを相手に分かるように表現すること
- ③ 互いの考えを深めるために話し合うこと

これらの事項を研究授業で実際に行うことを目指すことにした。

- (2) 研究授業と協議会

ねらい: 写真を見たり話を聞いたりしながら、疑問に思うことを話し合い、自分の学習課題をもつことができる。

- 〈 授業後の協議会内容を踏まえた授業改善のポイント 〉

- ① 個別の学習課題だけでなく、学級としての学習課題を設定するために、それぞれが調べたことと思ったことを出し合い、話し合う必要がある。
- ② 個人の戦争体験資料を活用したため、子ども達の関心が戦争体験者の問題に向いていった。第二次世界大戦全体を貫く学習課題を設定させる資料の吟味が必要である。

4 成果と課題

社会科で大切にしたい三つの言語活動と授業実践から、次のことを確認することができた。課題としては、言語活動についての評価を検討することである。

- 課題に対して、まず、全員の子どもが自分の考えもつことが大切である。そのためには、資料などで調べたことや自分の考えをノートにまとめる力を日頃から高めておく必要がある。考えがノートにまとまっていることによって、進んで発表しようとする態度が育つ。
- 発表する場では、できるだけ多くの子どもが考えを述べるように配慮や工夫をしたい。そして、発表することを賞賛し、自信をもたせたい。
- 多くの子ども達が意見を発表することによって、課題に対する考えが拡散した状態になる。課題に正対しながらも、大きく拡散した状態をつくるのが大切である。
- 拡散した意見を収束に向かわせるとき、話し合いが必要となる。話し合う方法は学級の実態や課題に応じて様々な工夫をすることが求められる。学級としての学習課題をまとめるには聴き合い、そして折り合う作業を通して一定の合意形成を図る展開を工夫したい。